



特集

神栖
デイスカバリー

File
17

工場夜景クルーズ

紙上体験！ユーリカ号で旅する鹿島港



Pick up

- 2025年度神栖市立幼稚園新入園児募集 P6
- かみす地域クラブ活動開始 P22
- はたちの門出を祝う式典「はたちのつどい」開催... P24

10月から期間限定で開催されている“鹿島港工場夜景クルーズ”を紹介。いつもとは異なる鹿島港を紙上で体験してください。



市メールマガジンはコチラ



広報かみすが動き出す
【COCOAR】アプリをダウンロードし表紙にスマートフォンをかざしてください。詳しくは12ページ



【COCOAR】



神栖ディスカバリー

File 17

特集

工場夜景クルーズ

紙上体験！ユーリカ号で旅する鹿島港



①



③



②

①石油化学コンビナートで神々しく光る白い山。実は工業用の塩。電気で分解し、石けんや洗剤、塩化ビニールの原料など幅広く使用される ②ユーリカ号に乗って出発 ③徐々に工場群に灯りがつき始める

大好評の特別企画を今年も実施

鹿島港といえば、地図で見慣れたY字型航路がパツと思ひ浮かぶ人も多いのではないだろうか。世界に開かれた海の玄関口ですが、鹿島臨海工業地帯の海上輸送基地のため、残念ながら一般の人は自由に立ち入ることができません。そこで、世界有数の掘込式港湾を多くのの人に見てもらおうと、土日祝日の昼間一便のみ見学船「ユーリカ号」が運航されています。コロナ禍の3年間は運航休止となっていましたが、去年から再開。しかも新たに「鹿島港工場夜景クルーズ」がスタートしました。

これは、茨城ディスティネーションキャンペーン(茨城DC)の特別企画として始まったもの。茨城DCとは、JRグループ6社と地域が一体となって行なう国内最大規模の観光キャンペーンです。鹿島埠頭株式会社船舶部の小野利文さんによると、去年10月からの5カ月間で、個人乗合便、ツアー便、団体貸切便など計13便を運航し、282人が乗船。「夜景がきれいだった」「また乗りたい」「知り合いに紹介したい」など、とても好評だったそうです。そのた

ユーリカ号に乗ってY字型航路を進みながら、コンビナート群の夕景や夜景をたっぷり1時間かけて楽しむ鹿島港工場夜景クルーズ。去年に続き、今年も10月から便数限定で運航がスタートしました。その見どころをご紹介します。



④



⑦



⑥



⑤

④夕暮れから夜にかけて、オレンジ色から藍色に移り変わる鹿島港 ⑤大型船と大型荷役機械が並ぶ鉄鋼コンビナート ⑥目の前で見る大型船は圧巻 ⑦海に突き出た大型クレーン

め、今年から期間を限定し、定期事業として継続することが決まりました。

神々しく浮かび上がる「塩の山」

それでは、体験乗船に出発。これから皆さんに、鹿島港工場夜景クルーズの紙上体験をお楽しみいただきますしよう！

日没時間に合わせて出航となるため、日没20分前に鹿島港消防署の隣にある見学船待合室に集合。ここで、鹿島港の概要や本日の見どころ、乗船の注意事項など、10分ほどのガイダンスがありました。徐々に期待が高まります。

さあ、いよいよ栈橋を渡ってユーリカ号に乗船。船溜まりを出て、まず南航路に向かいます。この日は夕日が雲に隠れて夕焼けは見られませんでした。薄暮の中に工場の灯りが美しく浮かび上がってきました。

南航路から中央航路へ。石油化学コンビナートのエリアはプラントのライトが星くずのようにきらめき、フレアスタックの大きな炎も見えます。やがて、優しくライトアップされた「白い塩の山」が現れ、乗客から歓声が上がりました。これは工業



神殿のようにそびえ立つ穀物サイロ。飼料コンビナートは日本の食を支えている

用の塩ですが、夜に見ると神々しく感じられます。ここで少し船を停め、撮影タイムとなりました。

さらに中央航路を進み、330メートルを超える巨大タンカーが停泊する棧橋付近に到着。目の前いっぱい広がるコンビナート群の大パノラマは、息をのむような眺望です。夜の闇が濃くなって、鮮やかさを増す工場夜景。ここも格好の撮影スポットです。

そそり立つ大型船と神殿のような穀物サイロ

さあ次は船を旋回し、中央航路を鉄鋼コンビナートに沿って進みます。目に飛び込んでくるのは、大型荷役機械が煌々と照らし出されたダイナミックな景観。通称「キリン」と呼ばれる巨大クレーンが、海に突き出ています。停泊中の大型船に近づくと、まるで海の中に巨大なビルがそそり立っているようで、スケールの大きさに圧倒されました。

そこから船は北航路へ。飼料コンビナートのエリアには穀物サイロ群が立ち並び、まるで神殿のような荘厳な雰囲気漂います。

乗船中は、船内でも見晴らしの変

化を楽しめます。1階席は視線が海面に近く、波しぶきが窓をぬらし臨場感たっぷり。2階席へ行くと、一気に視界が開けます。さらに2階後部のオープンデッキに出ると、潮風に吹かれながら工場夜景を堪能できます。船の速度は9ノット(時速約17キロメートル)ですが、もっとスピードが出ているように感じました。こうして1時間のクルーズを終えて帰港。接岸作業を待って、船を下りました。

安全航行を最優先する使命感

目を改めて、どのような思いで鹿島港工場夜景クルーズを実施しているのか、小野さんと船長の達崎航さん(だんざきなる)に話を聞きました。2人が最も重視しているのは、安全運航の徹底です。

「何よりも安全が最優先のため、風速毎秒15メートル以上、波高1メートル以上、視程300メートル未満、そのいずれか1つでも当てはまると運航できません。加えて、うねりが大きくなって危険な場合なども、船長の判断で運航中止としています」



①

- ①「キリン」と呼ばれる巨大クレーン
- ②小野さん(左)と達崎(右)さん
- ③腰に巻くタイプのライフジャケット



②



③

す」と話す小野さん。

また、工場夜景クルーズでは、オープンデッキに出るときは、必ずライフジャケットを着用するのが決まり。船から転落するような事故が絶対に起きないように、夜間は乗組員にスタッフを加えた3人体制とし、子どもがいすに立ったりしないよう、しっかりと目配りをしています。

達崎さんは、うねりがあってもなるべく船が揺れないよう、エンジン



成功モデルとして世界に知られる鹿島港



④



⑤



⑥

④安全を最優先して航行 ⑤船内から見る工場夜景 ⑥約60分のクルーズを終えて帰港。非日常の世界を堪能

の出力やスピードを調整しながら運航しています。

「巨大タンカーや大型貨物船が通るときは引き波が起るので、横波を受けて転覆しないよう波の正面に船首を向けます。他にも、鹿島港ではたぐさんの船が行き交っていますが、夜間は船と景色が同化して非常に見づらくなるんです。そのため、船に付けられている舷灯(げんとう)左側が赤色を頼りに、相手の船の赤灯だけが見えるから自分の船は左側を通っているとか、両方の舷灯が見えるから正面にいるとか、判断しながら航行しています」

面白いトリビアや御船印巡り

こうして安全を確保しながら、乗客にできる限り楽しんでもらえるようさまざまな工夫をしています。船内では、鹿島港や船に関する面白いトリビアを放送。例えば、船は原則右側通行で、舷灯のルールは飛行機も一緒なこと、鹿島港からの航海日数は東南アジアまで1週間、アメリカ東海岸まで約1カ月、ブラジルまでは約45日もかかることなどです。

それらに加え、小野さんが興味深いトリビアを披露してくれました。「国家プロジェクトとして進められた鹿島開発は、港湾の整備と企業の誘致により、周辺地域に雇用と所得を創出しました。これは日本の成功事例とされ、それらのノウハウがタイやミャンマー、アフリカ地域への開発支援にも活用されているんです

よ」。世界中の港に影響を与えていると聞くと、誇らしい気持ちになりますね。

もう一つ、待合室の売店で御船印(ごせんいん)を販売。これは、御朱印の船バージョンで、鹿島埠頭は日本旅客船協会公認の「御船印巡りプロジェクト」に参画しています。現在、全国に131社の御船印があるので、旅先で集めてみるもの楽しそうです。ちなみに鹿島港の御船印の絵柄は、見学船を操船する船長が描いた見事な水彩画が元になっています。



茨城DC限定デザインの御船印

船と海を好きになってほしい

最後に、市民の皆さんへのメッセージを伺いました。小野さんは、「乗

客の皆さんに、楽しい思い出を持って帰っていただくのが一番の願いです。私たちの生活を支えている鹿島港で、非日常の夜景をお楽しみください」と話してくれました。

達崎さんは、「乗船した皆さんに、船と海を好きになってほしいですね。工場夜景クルーズをきっかけに、子どもたちが船の乗組員を目指してくれたらうれしいです」と言います。達崎さんは、海に面していない福島県郡山市の出身。だからこそ初めて海や巨大船舶を見た時の感動は大きく、同じ感動を乗客に味わってほしいと考えています。

さて、鹿島港工場夜景クルーズは非常に人気が高く、現在発表されている個人乗合便は全て完売。しかし、「次はいつ運航するのか?」「運航本数を増やせないのか?」などの声もあり、11月24日(日)、12月1日(日)、12月8日(日)の個人乗合便の追加運航が決定しました。詳しくは、市ホームページまたは、鹿島埠頭のホームページをご覧ください。身近にありながら、まだ知らないことが多い鹿島港。工場夜景クルーズで、その魅力を改めて体感してみませんか。

